

慶大最初の得點!! 初半三十分 慶大FW二
宮のショート極ってゴール成る刹那(両手を擧げてゐる
のが二宮君)

（右）と京大FW井上の激しい競合

（左）と京大FW井上が激しい競合

全國學生蹴球の王座を決する
慶大對京大の第九回東西優勝校
対抗争覇戦は舊暦十二日神宮競
技場で舉行、京大のバックス善
戦して大いに慶大を苦しめた
が、結局3-0で惜敗し、慶大
は第四回以來再度光榮の選手権
を獲得した





岡KG大京をグンイデへの細小大慶 分七十二半前
む止てじう辛本



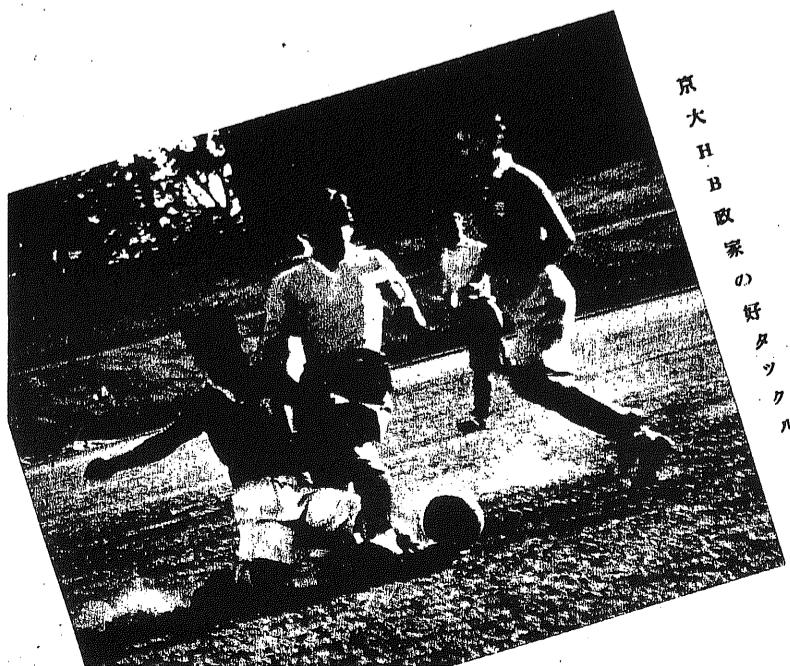
る迫に前ルーゴ大京てつ迫を球官二WF大慶 分十半前 ルブリドな事見



鳥飼善 その日の三審判 川井綱審、野村主審、福



京大 G K 岡本の善観



京大 H B 政家の好タックル



京大の奮起も空しく

東西優勝校對抗試合

二正上野

「慶大T氏の談」

BのT氏と、京大O・BのF氏として感想を求めて、次の様な答へを得た。

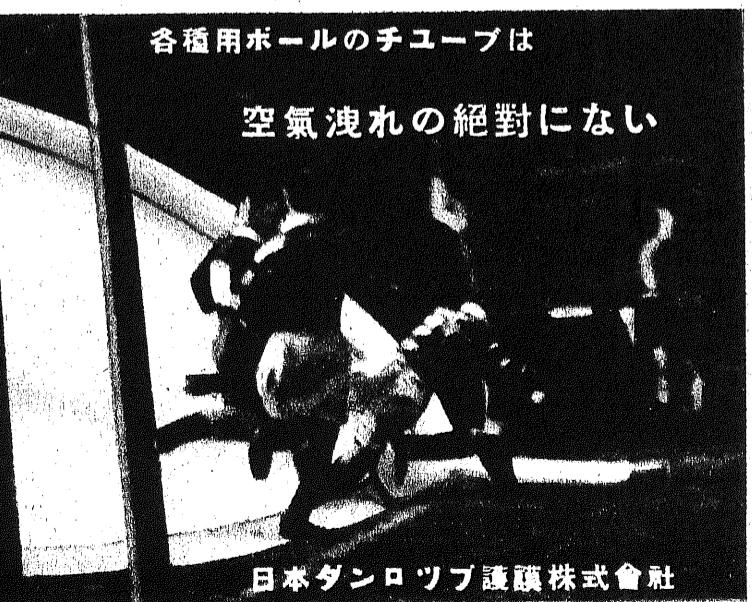
兩氏共に各々のチームに相異深しい關係を持つてゐる立場からの問題であるから、第三者として興味深いものがあると信じる。

「京大F氏の感想」

各種用ボールのチューブは

空氣洩れの絶対にない

日本ダンロップ謹製株式会社



で、即ち慶大の第二點を得るまで
の間であったといふことが出来
る。

しかし京大F・Wラインの、不
揃ひによる攻撃力の劣勢は如何と
もなすことができず、ほとんどシ
ヨツトらしきものを慶大ゴールに
送り得なかつたのは、慶大バツク
スの強さにのみ歸することはでき
ない。特に前半L・W市山より生
じた数回の好機會の芽生えも遙に
物にし得なかつたこと、或は後半
十五分頃より約十分間連續した京
大の攻勢に際して、攻法の厚味が
なく戦況の判断に正鵠を缺き、結

・Kよりのボールを完全にクリヤーする事が出来ず、混亂の内に猪俣に第三点目を奪はれてしまつた。

國大バックスは、一般には弱い（或は弱くない）との評判があるが、實力は必ずしもしからず、第三F・Bとしての石川の動きを中心とする防禦陣は、可成りの強靱さを歴してゐる。今春來競多くの試合を通じて、彼らの相手方に興へたゴールは僅かに四で、その内シーズン中のリーグ戦では対帝大に一點對草大に一點を吊してゐるのみで

大體においてシーズン中の約三ヶ月にわたり試合能力に可成甚しことに注目しがちである。従来の例よりすれば、さきの例では開幕作戦を主とする強襲攻撃が、たゞ初期は序盤で、中期は後半で、後期は終盤まで、と、順次進展する形となつてゐる。そこで、この年も開幕は序盤で、中期は後半で、後期は終盤まで、と、順次進展する形となつてゐる。そこで、この年も開幕は序盤で、中期は後半で、後期は終盤まで、と、順次進展する形となつてゐる。

利で、大差をもつて再び敗れ去る
ものとされた。然るに慶應Ⅱ
・Wの立ち上り悪く、加ふるに京
大バックスの逆襲に阻まれ、試
合は後半の半ばを過ぎるまで直角
の状態で進められた。これは京大
チームの忠實執拗なマーキングの
成功であつて、その努力を偉とす
るに足るものである。結果は三一
〇をもつて關東側の九年連勝を記
録せしめたが、試合の山は前半三

學生時代の絶対的である東西學が對抗戦以來京都帝大へた慶應大學と、三年間の雌伏を蹴つて代表権を獲得した京都帝大との對戦となつた。兩軍は昭和七年度對抗戦以來第二回目の顔合せであり、京大とは復讐戦ともいふべきものであつた。

一ヶ戦に乗り入れ、中間にやゝ中
だるみを生じはしたが、対帝大戦

BのT氏と、京大O・BのF氏として感想を求めて、次の欄な答へを得た。

爾氏共に各々のチームに相異ない關係を持つてゐる立場からの観であるから、第三著として興味深いものがあると信じる。

「慶大T氏の談」

京大チームは思ったよりよく纏つてゐた。慶應のF・Wが不調であつたことは否めないが、この原因の一つは、既に學期試験に臨んでいたからである。前半三千分の後半の攻勢は、京大チームの球の保持力が難局でない限り(之は結局チームの攻撃力の基礎となるものであるが)、

T氏の言葉の如く、第一點を確
に行つて得たのであり、二點目以前者を割り切
は二戸の切れ込みの成功したものであつた。しかし慶大としては、
相手方バックスを突破出来る
を含みとして、これに窄制され
バックスの穴へ、激しい動きをして
するF・Wラインの切れ込みを
もつと見せたかった。

「再び好調に返り、對戦してゐる。かくの如き體とするチームの能

一定に保ち得ること

ば短期間に二回以上

持ち得ることを意味す

てくれたのは、大なる

由は、バッティングが餘りに足元に

近く過ぎたために、出足の早さ

京大バックスの潰しにあつて狼狽

したことにある。更に播磨、二宮

が強引に相手を振り離さうとして

跋を待ち過ぎ、反つて京大バックス

スの防禦網内に巻き込まれた形で

終了後、両チーム

當事者が如何に感

麗大の主要な戦法は、右側から

の基本的な攻め方と中央突破と

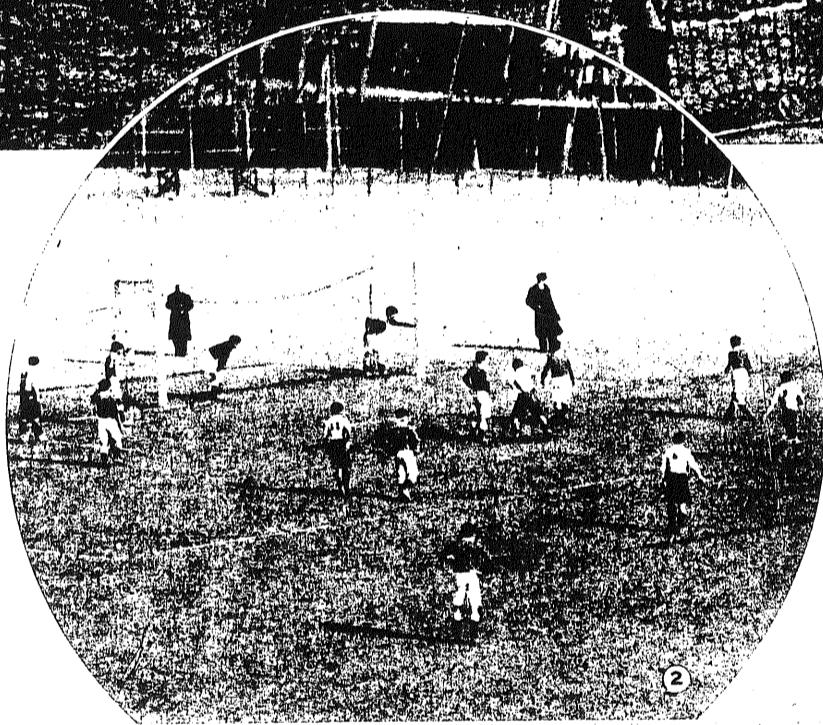
F・Wとしては、もつとギリヤー出來ると思つてゐたのが——出なかつた點に勝敗があつた。これは關西での経験によれば、相手防衛陣の一角を振り切つた時に少しの隙があるので立ち直ることが出来るのであるが、この試合では一線を破つた直後に潰されその間少しの隙もなかつた。或神官灘競場の狭さによる戦法のひかとも思はれるが、慶大、バックスの地力に抑へられたといへる。従つて〇・F山中のダッシュ効果がなくH・Bよりのフィードも断たれ勝ちであつた。

競い東西の四強

朝日招待蹴球戦



①

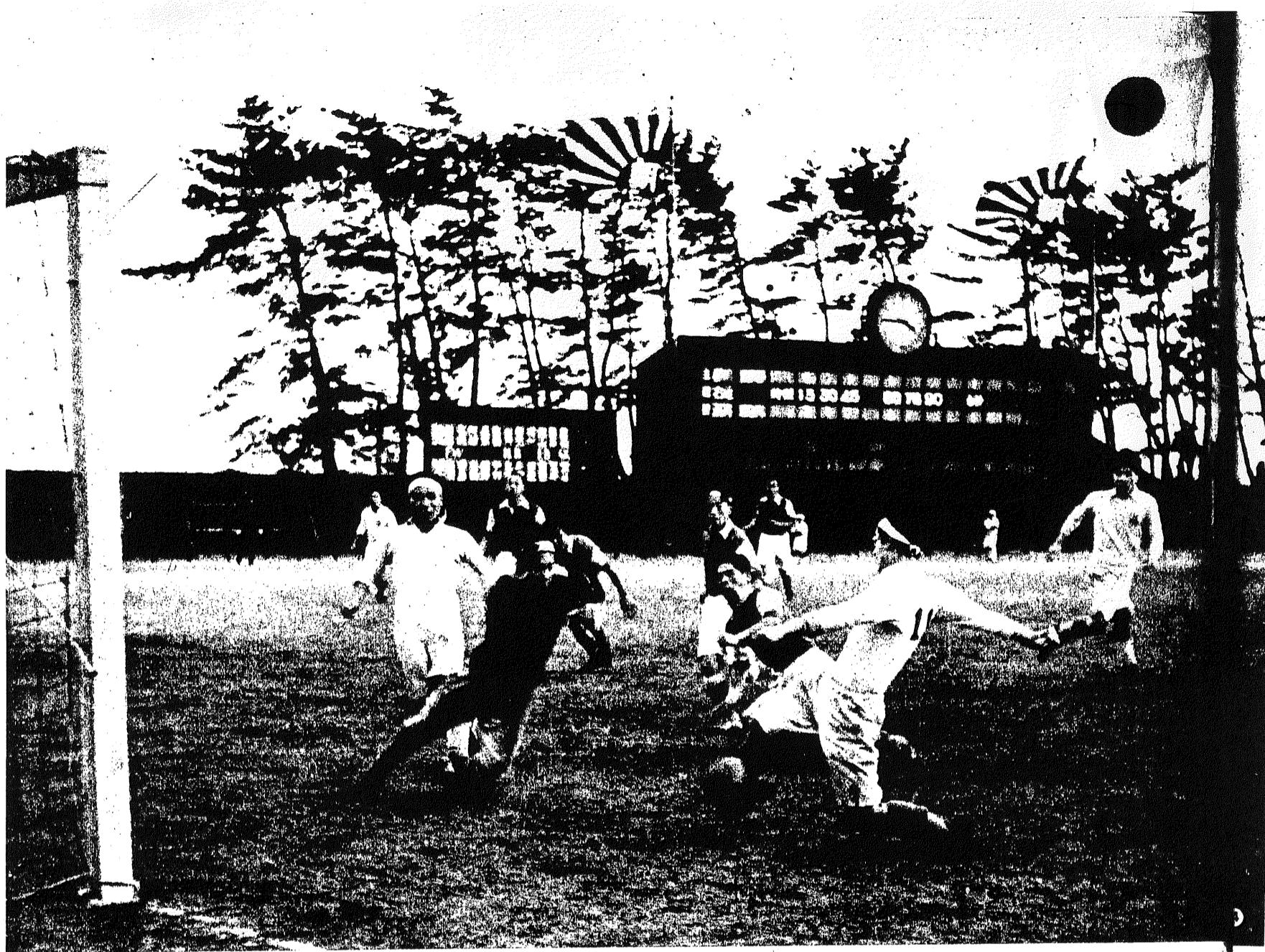


②

慶應対京大戦
一月八日甲子園南運動場で舉行された朝日招

待蹴球試合の第一戦慶應大學對京
都帝大試合は二對零で慶應勝つ。
①後半二十分慶應挑戦のシュート
を京大GK岡本が鮮かにOKへセ
ーブしたところ②京大のゴール前
へ迫る慶應軍③後半の二十七分慶
應の番闘(×印最初の一撃を擧げ
た刹那)





東大對關學戰 第二戰の東京帝大對關西學院試合は八對二で東大が快勝した。後半十五分、東大〇・松村がブッシュして得點する直前、(5)前半三十分關學ゴール前に突進する東大軍。(6)後半關學の岡野がバックして東大の攻撃をカットす。



ASAHI INVITATION SOCCER The Asahi invitation soccer games between the two strongest teams of the Kanto and the Kansai Intercollegiate Soccer Leagues were held at the Koshien grounds, January 8. Keio (Kanto) subdued Kyoto Imperial University (Kansai) 2-0, and Tokyo Imperial University (Kanto) demolished Kansei Gakuin (Kansai) 8-2. ①②③ depict Keio vs. Kyoto Imperial University game, and ④⑤⑥ are snaps from the Kansei Gakuin vs. Tokyo Imperial University meet.

關東中等府縣對抗蹴球評

青山師に凱歌

同情された埼師の不運

昭和十二年度尾鷲を飾る開業中等學校府縣對抗蹴球選手權大會は各府縣の願望を資つて集つた八代校によつて、十二月二十六、七月の兩日神宮外苑御競場において行はれた。參加は湘南中(神奈川)、斐崎中(山梨)、青山師(東京)、埼玉師(埼玉)、勝岡中(群馬)、鳥山中(栃木)、茨城師(茨城)、千葉師(千葉)の八校で、競選に優勝し、或は名譽の推薦を受けて、今年こそ榮えある榮冠を獲んだものとの意氣に燃えて、馳せ参じたものである。

中7—1千葉師、青山師9—0鳥
山中の結果に終つた

技術に壓倒され、十二對〇のスコアで大敗を喫するのやむなき至つた。湘南にして見れば、體力に愚まれてゐないのであるから技術の鍛冶に意を注ぎ、機器の緊密化と闘志の養成とに努めることが重頭である。

決勝試合

先づストスに勝つた猪玉輝は、求めて風下に陣し、前半守勢、後半廻らせば、青山師はこの策を適用し、前半一氣に大勢を決して立ち直りの隙を與へまいとする。これがの策略が成功するか。青師は先づ風上の優位を利用して十分橋本（RW）に出た球を大きく中央送球するを、小川（L1）取つて強襲を放てば見事ゴールを衝いて二點を先取し、續いて十六分左寄より攻撃に出で、茅原根（LW）の球を構立（GF）ショートすれば、膝をついた吉田（GK）の頭の上をラップルし、吉田これを追つて及び腰に球を觸んで倒れたが、時既に迎球はゴールインして二点をリード

ドするに至り、埼玉師の作戦は全く順調したものゝ如く重荷となつた。

後半戦に移るや、いよいよ埼玉師の追撃戦だ。埼玉師はまず陣容の整備をはかつて、二分山中（L1）によつて青山師の堅陣を突破し、伊藤（RW）に渡し、中央へ送球するを近藤（CF）へツイニングに決めて一點を返す。追撃は急だ。六分ぶたゞび右CKを得て伊藤（RW）の好送球を山中（LI）の（バッティング）に決定的奸機を迎へたが、惜しくもオフサイドで

逸した。更に十四分ゴール直前の
フリー キックの失敗、十七分池田
(CH) の好蹴はバーを弾き、二十
一分伊豫(R.W.) の好送球を近藤
(CF) 失敗するなど猛攻撃を敢行
したが、青師必死の守備と幸運と
に阻まれ遂に二対一をもつて敗れ
去った。

に及んで、垂端中の障害は遂に消滅し六點を獻して悲涙を呑んだのである。

山師がロットに恵まれて壁つた程で、埼玉師にして見れば正にこの試合こそ遺恨試合であり、また青山師は今日こそ埼玉師に勝る實績を明かにするとともに、朝著を倒すの優越感に浸らうと張り切つた。



優勝した青山師範チ

S
13.
1.
15



は會大權手選球蹴等中東關る誇を統傳い古に界球蹴がわ
對範師玉埼は勝決、行舉で場技競宮神日兩七、六十二臘舊
ことるす勝制の師青で戦接の一對二れは行に間の範師山青
行を禮敬最の謝感軍皇るけおに式場入は眞寫=たつなとろ
埼分二十二半前、合試の範師城茨對範師玉埼と(下)面場ふ
前直る成ルーゴの目回二第て得をクツキーナーヨ師



関西學院大學に勝った慶應大學の雄姿
前列向つて
右から播磨、石川、宮川、松元、笠原 後列向つて
右から篠崎、二宮、加藤、津田、猪俣、小畑

慶應對關學大戰 前半四十分慶大猪俣見事なシューで得
點をあげたところ



ツへの森大京るけおに前ルーゴ大東戰大京對大東
ケンイデ



蹴球界の年頭を飾る豪華試合として多大の感興をもつて迎へられた本社主催の第二回朝日招待蹴球大會は一月九日甲子園南進運動場において花々しく舉行された。全日本学生界の覇者慶應大學對關西學生界の第二位校關西學院大學の第一試合は慶應FW特異の爆撃に物いはせて前半戦に既に六対一の大差を開けて勝利を不動のものとしたが、後半戦に入つてからは關學大物凄く反撥して王者慶應に對してひた押しに押し捲くつて二点を挽回せしも及ばず結局六対三のスコアをもつて慶應が名をなした。次いで行はれた關西學生界のナンバーワン京都帝大對關東の第二位校東京帝大の試合は大接戦を豫想されたものであつたが、試合は意外にも東大ふるはず京大意の如く鐵桶の備へを誇る東大の守備陣を突破して遂に五対二の成績で京大堂々と凱歌を奏したのであつた。



S13-2-7



前ルーゴ方珠田三HC學闘を観戦の大慶、戦大學闘對大慶
すとんせ脱を機危てクツキ・トイサトウアで



てし起喚をと熱と氣意の特獨會大同てしとのれ着手選球蹴校高は會大球蹴校高國全
は合試、たし行舉ていおに場球大東間日六らか日一月一を會大回五十第は年今、がるるてつなにところれは行にとご年隔 ていおに地の都京、京東
點得分九半後島廣ていおに戰勝優の京東對島廣は(上右)眞寫、たつ握を權勧てし退駁を京東が島廣ていおに戰勝優辰結果たし起喚を濶波の多競
京東が左、島廣が右てつ向て式會閉の會大(下左)(ムーオフニユ白)前直の點得るすドーリを點一半前京東で戰京東對島廣は(上左)ぐ舉を

魔大RW篠崎のジャンプ・ヘッディング

蹴球

豫想を裏切つた

關西勢の不調

三宅二郎

去月二十三日、甲子園南運動場において舉行された第七回東西選抜抗蹴球試合は、戦前における一般の豫想を裏切つて、關東は易易と關西を壓破して四勝四敗の同成績となつた。

試合の結果から見ればこの關結は當然なものであったが、しかし關半三一と關西が不利な状態にあつたとはいふものの、後半戦に移れば關西は風土を背にする有利な陣に立ち得ること、および前半はかなり不調に悩んでいたが、聯絡さへ略へ得るならば古驥者御ひの

フォワードを揃へてゐるので、或ひは演説を切り抜けて援戦をするのではないかとも想像されたのであつた。しかるに關西は、最後までフォームを整へ得ず、豫想外の慘敗に終つてしまつた。

(3)

關西の敗因は、全員の不首尾によるものであるが、とりわけ兩サ

イド・ハーフの非力が目立つてゐた。この日の三田、田邊兩君の動

きは、常日頃に示すよさとは全然動きを異にし、ボールの操作拙劣で、またカバンも極めて鈍かつた。

勝つた關東も、決して上乘の動きであったとはいへなかつた。しかし二戸君を中心としたフォワードは躍進力強く、また氣魄において關西よりはるかに上を行く優秀なものであつた。加茂弟おおよび齋藤君の側線からの猛攻もあつたが、播磨君と二戸君が好コンビで一氣に關西陣深く衝いて出るあたり、なかなか鮮やかなものであつた。關野、森山君のサイド・ハーフは、攻守両面へかなり適切な動きを見せ、また種田君が下がつたフルバック陣は、關西フォワードの伸び動きにも因つたのである。

が、がつちりと鐵壁のごとき守備網を張つて、古驥者御ひの關西前線の動きを、完全に近いまでせき止めたのは殊勳であつた。また前半ペナルティ・キックをとらねたとき、ゴール・キーパーの浦田君が關西大谷君のキックを大きく轉びながら防いだのは眼にとまつかる破目に陥つてゐた。

關西はハーフの不出來なうへに多大の自信をもつてゐたフォワードも意のことく動けず、O.H.種田君を中軸にがつちりと布いたフルバック陣に對して、まるで壁によつつかつて行くが如く薄力なものであつた。蹴球力において右に出るものなしといはれた大谷君、それオールラウンド・プレイヤーたる右丘君など、尋々たる連中を擁

してゐながら、苦悽打解の策を施し得なかつたのは眞に哀れであつた。O.Hとして關西唯一の稱ある木下君は、攻撃への參賽力は別として、フルバック井上、吉江兩君とのコンビよく、後半戦において僅か1點に關東の猛攻を喰り止め得たのは先づ上田君だつた。それでも、ゴーリヤーバー上吉川君は何時になく不手際な演球振りで、後關の憂ひを深からしめてゐたのはどうしたわけか。

(4)

勝つた關東も、決して上乘の動きであったとはいへなかつた。しかし二戸君を中心としたフォワードは躍進力強く、また氣魄において關西よりはるかに上を行く優秀なものであつた。加茂弟おおよび齋藤君の側線からの猛攻もあつたが、播磨君と二戸君が好コンビで一氣に關西陣深く衝いて出るあたり、なかなか鮮やかなものであつた。關野、森山君のサイド・ハーフは、攻守両面へかなり適切な動きを見せ、また種田君が下がつたフルバック陣は、關西フォワードの伸び動きにも因つたのである。

點得の一唯でクツキの川前方西關 分五十三半前=球蹴抗對西東



同じく後半、關東の猛攻を關西のF
B井上クリアーゼンとする剝離



關 東 チ 一 ム

関西都市対抗蹴球選手権

全神戸制覇

京都長蛇を逸す

津 田 弘

第一回関西都市対抗蹴球選手権 大會は、二月六日及び十三日の兩

日本甲子園運動場において大阪、

神戸、京都、高松、和歌山の五都

市が参加し相富人氣を呼んで行は

れた。試合は豫想された如く高

松、京都を軍門に下した全神戸

と、和歌山を一蹴した前綱者全大

阪が決勝に相見え、五對一と大

きに應じて河本、伊藤、矢持の参

加をも望み得た強烈さは他の追従

を許さず、バックスに背中のかへ

アーフェン、川西の存在あり、GK

西川も捕球に難色無く時に主將赤

川、木村、前田のハーフラインに

岡田、戸川、清瀬と適應の出馬

は、制湖へ拍車をかけた感を呈し

た。

▼△…これに反して全大阪は、

數において勝るとも負において内

容に乏しく、その布陣に想像以上

の苦心を要し、加よるに對内的技

術の粗雑さをも露呈し、神戸の躁

闘にまかした。兩翼にト部、津田

とセンタースリーに大越、島、木

本と並んだホワードラインは、ど

う見ても神戸軍に歴すべくもな

く、たゞ防禦に懸命駆轍したCH

森を中軸とする清水、櫻井のハ

ーフラインが活躍したに止む。後陣

GK渡邊、前田、大倉のトリオワ

ークに、よし阿部、鈴田、長井の

参加があつても申乞なく、大勢に

は影響甚少にて補給工作に、神戸

のそれの如くスムーズに運ばなか

つたことも敗因の一つでもあつた。

△…准決勝においてボイツス
ルの鳴るまで綱者全神戸チームを
窮地に陥れて心臓を寒がらしめた
京都チームは京都師範出身者を主
體として、筋節獨特の粘着力と英
氣激刺たるホワードラインを持
ち、左から福井、安井、藤田、四
方、保野とメンバーしたところ、
若さも手傳つて爆發的な攻撃を頻
発、高田、田口、金田のハーフ
チームを追ひ込んだ運行振りは、

今回の都市対抗戦の一面目であつ



優勝した全神戸チーム

た。OBチームとしてのまとまり
を許さず、バックスに背中のかへ
アーフェン、川西の存在あり、GK
西川も捕球に難色無く時に主將赤
川、木村、前田のハーフラインに
岡田、戸川、清瀬と適應の出馬
は、制湖へ拍車をかけた感を呈し
た。

▼△…然しこの都市対抗戦は、
所謂全神戸に對する四都市の挑戦

において、特にその試合内容に多

くべく、唯難をいへば森、片岡、

あり、果して全神戸を破るはど
各都市の差異はもやん認める
の都市であらうか。高松、和歌山
が、上記の如くその進歩の課程に
がそれへ大阪、神戸に大敗を喫
したことは、兩都市の今後に一層
の努力が必要であらうし、都市對
れば、技術的な進歩の明確もまた
なトリオワークがなされてゐたな
らば、優勝都市は地をかへてゐた
は、制湖へ拍車をかけた感を呈し
た。

▼△…然しこの都市対抗戦は、
所謂全神戸に對する四都市の挑戦

において、特にその試合内容に多

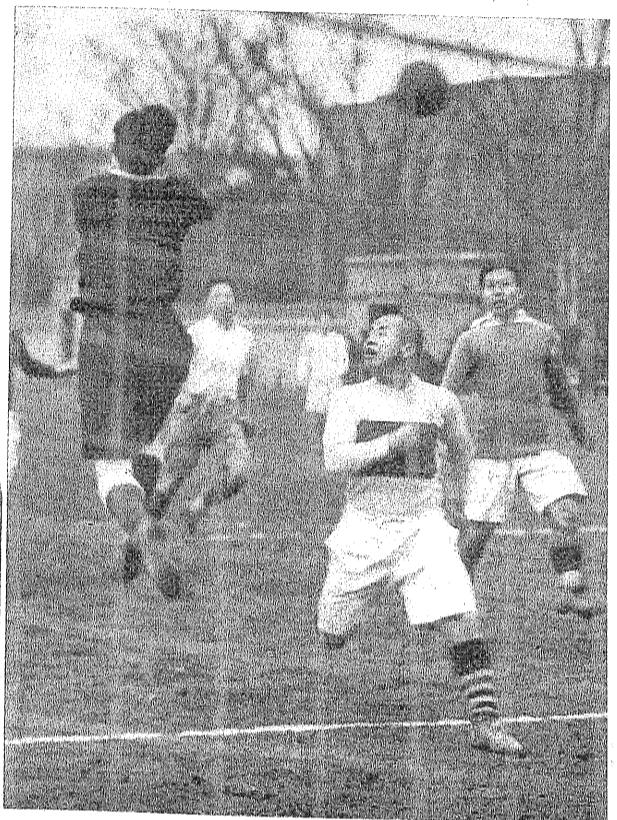
くべく、唯難をいへば森、片岡、

川、木村、前田のハーフラインに
岡田、戸川、清瀬と適應の出馬
は、制湖へ拍車をかけた感を呈し
た。

S13-4-1



の終最グーリ球蹴BO生學京東
ルーゴ應慶・戰勝決應慶對大東
勝優大東で零對三・戰熱の前



東西對抗OB蹴球評 關東軍連勝す

東西對抗OB 跡球評

關西 HB 線振はず

市橋

路政署の幹部と老練を経験した
東西OB軍は、決闘の三月二十日
試合は敗北したが、勝利した側は
敗北ではない。

甲子園原頃に相見え、東西リーグ
なゲームではなかつた。得點

に葛で重名を纏はれた猛將關土の
その後ますく研磨された技能に
より、試合の勝敗といふより違う
快挾に醉はんものと、酔闘席は脳
つた。見物には絶好の春の一日、
しかし選士の身には温度は算り過
ぎてゐた。

関東が大量に倒たが、ボールは電
軍陣内に平均して動いてゐた。後
半戦は負傷者續出にて試合の面目
味がなくなつたが、前半は非常に
見るべきもの多く、かつ試合を通じ
て兩軍防禦範囲の相違は、誰しも
目に止つたことであらう。

す、萬年の勇將竹腰が陣頭に馬を進むれば、關西また宿將赤川、後藤を中心に堅陣を布いて之を迎へた。甲子闘は關西軍のホームグラウンドといふ時代は過ぎ、何れの選手にとつてもハンデはない。兩FWによっていた。これで關西軍のFWと關西して考へる時、關西のFWの不調はあるが、大體満足に近い結果を得てゐる。個人の強さがこれに加はり、兩サイドHBに動きの鋭さといふか、攻防に際し動

イン



卷之三

しろ關西側バックスの不備にあつた。竹内一長岡一竹腰の得點の際、關西赤川は良く防いだが、竹腰のダッシュの方が一枚上で、これは竹腰の堂々たる得點であつた。

る。そして相手のマークより離れてある場合が非常に多い。そうでもない。小川君の二得點、松丸一竹腰の同じコースの二得點は、關東

つた。費辞をいへば早くWへハシレWより高山の後方を働く方法、インナーより反対のウイニングなど、敵を攪拌する方策に出づべきで

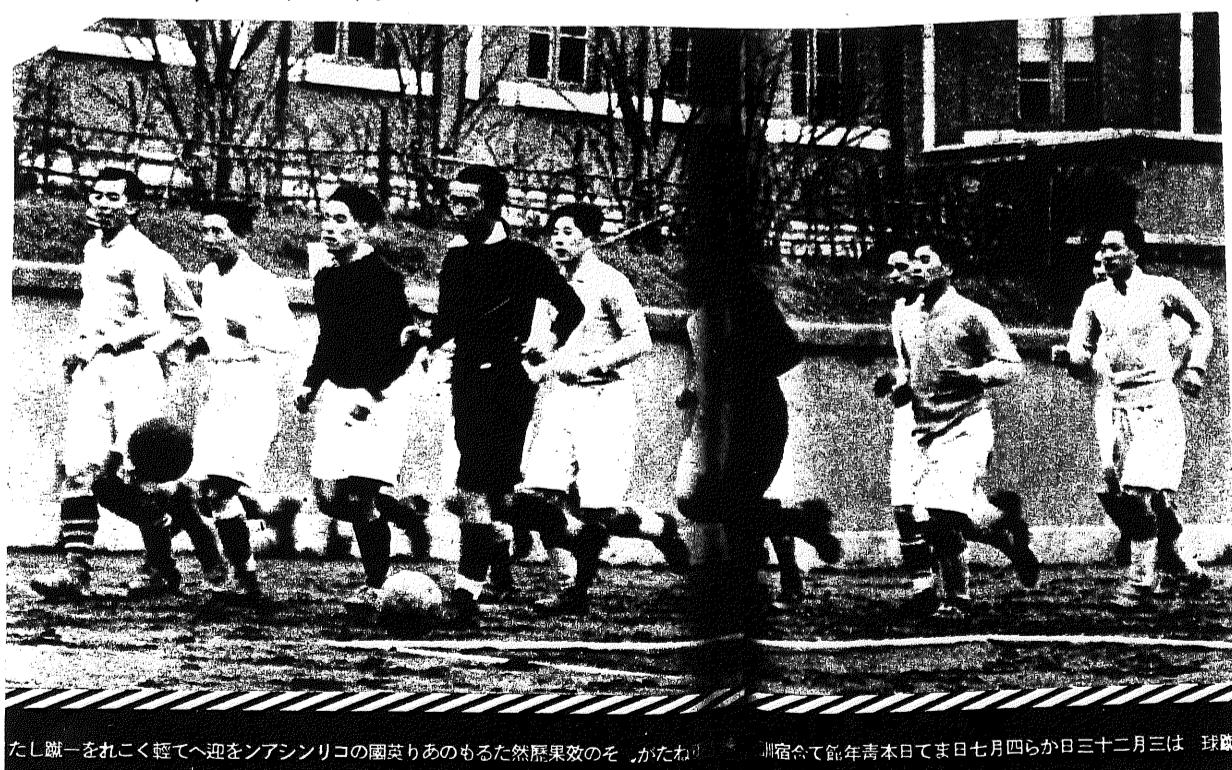
Wの迫力は確かに劣つてゐた。勝敗のマーカの緊密さの重複は、あつたであらうが、これとて審議といふは遠く、要するに體面でWの強さの不足といへやう。しかし二點の得點は好聯絡の見事な得點であつた。チームとしての強さ

競さと強い動きを見ては、現役軍は常にO・B車の下にある日も遙くはないだらう。これは「行き過ぎた言葉」であるかも知れないが、兎に角O・B車に今少しの暇を與へんか、この言は駄法螺でなく、必ず事實となるだらう。O・Bが忙中閑ボールに親しみ、強くなることは學生軍に大きな刺激を與へ、學生軍の士気上に貢献すること大なるは差ふ

としてこの進歩もある今日、これに對しては矢張り進歩したシステムをもつて對抗しなければならぬ。個人の強さは却つて囲碁バツルクスが上であつたかも知れないが、その連繋、そのシステムの運用、いふか防衛法に關西側は一考すべきではなからうか。といつて筆者には3EBを賞揚するものではない。關東の導師は既して「シユートでござる」と

關東の得點は概してシニコトでな

S 13-4-15



洲宿にて毎年春本日まで日七月四から日三十二月三は球磨

が十二枚重を宿合



日英國際蹴球に快勝

世界蹴球行脚の途次來朝したイズリントン・コリンサン・チームは四月七日神宮競技場にてわが全關東軍と一戦を交はした。結果は4-0で日本チームの快勝に歸した。寫真は後半二十三分、全關東軍盛んに英ゴールを強襲したが、G.K.ロングマンのノックにチャンスを逸したところ、チャーチするは二宣選手

INTERNATIONAL SOCCER The Islington Corinthian soccer team (British) which invaded Japan on its tour around the world staged a battle with the All-Kanto soccer team on April 7 at the Meiji Jingu grounds. The Nipponese battery subdued the invaders 4 to 0. The photo shows a scene in the latter half of the game when the Kanto team made a fierce onslaught but let slip a chance as a result of G. K. Longman's "knock." Ninomiya is making the charg.

合宿練習の成績

英軍一蹴の蹴球

竹腰重丸氏（談）

合宿は三月二十三日から四月七日まで、十二年度日本代表選手二十一名を集めて日本青年館で行つた。指導スタッフは自分と手島志郎、濱田謙吉、田邊治太郎、松内貞一、高山英華の六人である。

わかつんオリンピックは毎年の行事でオリンピックがあつてもなくてやる。

昨年の夏の合宿はベルリン土産の消化につとめ、主に戦略方面に力を注いだから。今度の合宿では専らテクニックの研究に終始する積りであつた。ところが途中から諒にイギリスのコリンシャンを迎へることになつたので目標がこれに向かへ、イギリス軍と対戦することになつた全開東軍の強化といふことが新たな主題となつた。結果は七日の試合通り一つの

強いチームを作ることには成功したが、初めの話題であったテクニックの研究の點ではいさゝか取り残されたものがあつた。

技術の方を離れて精神的方面では——勿論、チームの團結とか気分の統一などることは前から巧く行つてゐる。こんどは何と表現したらよいか——これら選手諸君が「自分達は代表選手であるから……」といった様な義務で動くの

でなしに自分達は選ばれて代表

分は、あの程度のチーム——、相當強いが——、に負けるとは初めから思つてゐなかつた。また勝つてます／＼自信を得た次第である。

帝大構内の第二学生食堂の上、リーグ戦の切符や何かで雑踏をきはめる運動會の事務室で、コーチング・スタッフの一人である竹腰氏は、蹴球軍のなか／＼颶渦たるところを語つて下さる。どうやら

あの試合の勝利は、日本軍が自らの持つ特徴を十分に發揮したといふ。つまり労働力の多い——たくさんが働く所謂機動體だったことが第一、筆二は我が軍のストード・ダッシュが非常に軽快たつたことである。結果は四對零といふ問題にならない試合だつたが、新聞の豫想などは「日本軍は幾點竹腰氏の心臓強化振りを拜見に來たやうなものである。御自分でも「心臓の強い話ですが」と、時々おつしやるが、何が竹腰氏の心臓をして強化せしめたか。この邊に東京大會におけるわが蹴球軍の花々しい未來が約束されてゐるのでないだらうか。



蹴球選手の合宿練習（東京帝

早か・慶か

オール延禧か

爾卓野小

全日本蹴球選手権豫想

來る六月十七日から三百間にわた
り明治神宮外苑競技場において、
關東代表慶應大學、早稻田大學、
關西代表慶應大學、東洋大學、
名古屋高等商業學校、朝鮮代表全
延福專門の五代表に依つて爭辯さ
れることとなつた。出場は、宣化

△全國第一 の激戦地
關東は預選參加チーム數二十一を數へ、大會規定によつて二代目を送ることになり、慶大、早大が出場権を獲得した。

A組において文理大は一回戦に東京蹴球聯を一對〇、二回戦にM・T・Rを四對一にて却け、准決勝にて慶大を前半に得た二點をもつてそのまま押し切り決勝戦へ進んだ。慶應は二回戦、三回戦にて決勝戦に進んだが、何れも前半で零対零の不調の試合を續けた。決勝戦における慶大戦文理大は

はされた。それがため父理大の強制必死な潰にあって、前半放つた實に廿一のシユートも僅かに一點を生かしたのみに終つてゐる。延長戦に入つて擧げた五點は、文理大が疲れ果てた後に持前の體に物をいはせた所産であつて見れば、依然解決すべき問題を胚胎してゐると見るべきであらう。

B組において早大は第二回戦に頑張り帝大と對戦し、一進一退の白熱戦となり二対三、延長戦に入つて帝大の自滅に依つて勝ち、二回戦、三回戦は輕く豊島サッカー、YOSを却け

であるが、昨シテ、ブンに且し關西代表はやゝ低下してゐるといふ。

クスは卿が脇弱味を認めないわけには行かないが、多彩狡猾の攻撃力は斷然だる強味であり、早大に比し一步強味を有すると考へられるから、強靱、タフネスを全延禱との一戦こそ、或ひは今回の争覇となるのであるまいか？

そしてまた、この一戦こそは正に副目に慣すべき試合とならう。慶應にして今一步激しい動きの度を増し、日もくろい展開によつて全延禱を奔命に疲らしむるならば、勝利は慶應に微笑むであらうが、躍動な労働力と彈引の個人技にかき廻さるとなれば、或ひはまた勝利の榮光は全延禱の上にふりそぐないとも限らない。

味氣ない試合をして順當なるところとなつた。早昇入替りによつてまだ轡を全體として一つの企圖のするにいたつてをらず、加茂らの優等な個人授にされてゐるに過ぎない。

選手の勝利を喜ぶ。後半を強烈なP・Kで締めくくる。試合を通じてその間P・K三回、實合に加戦の程もうかと/orれる。

ア・サ・ヒ・ス・ボ・ツ

※ 右ページカラーブック

見る機会がないため、プレイに變化も激しくもなく、技術的にレベルが低い感があった。しかし、これはひるがへつて「日本チーム」の世界蹴球界における地位を暗示するもので、是非國際試合の機會が多いことが必要とするゆゑんでもある。

しかし名古屋軍も精神的に不洁感であったといふ譯ではなく、死力を盡してゐたことは認められるが、試合の時に死力を盡すだけでなく、平素の練習の中にも不斷の研究工夫を必要とするのを忘れないで欲しい。

對名古屋高商戦は

選手権大会である以上、全國からの關心を集められてゐたことを知ることが出来なかつたが、パックの走力において一番穴があるやうな嫌ひがあつたが、フォードは兩翼をよく使つて相當よいコンビネーションを示してゐた。

對慶應戦においてはパックの布陣が形式に捉はれて開きすぎてゐたため、中央突破で一點を先取され慶應敗かと思はせたにもかかはらず、關西本來のキックアンドラッシュで二點を返したことは「下手な考へ休むに似たり」で、各ホヂショーンが思ひ切つて動き乍らの繩りを生ずる櫻工夫する必要がある。同點後ももつと奔放にプレイすれば面白かつたではないか、相手の勝負に未研究の餘地が残つてゐる。

もとに開かれたこの大會が日本一丸となつてどんなに頑張つても足らないくらゐだ。斯る情勢のもとに開かれたこの大會が日本

昭和十三年度の全日本蹴球選手権大會は第一、三回連続制覇を遂げた關東代表の慶應大と早大、東海代表の名古屋高商、關西代表の關西學院大學、それに朝鮮からの全連福を合せて四地方、五代表による六月十七日から三日間、關學大は名高商に慶應は關學大に豫想通りの結果を告げたが、早大と全連福および決勝戦における早大と慶應との試合は前者の試合は延長戦の白熱試合が後者の決勝試合は戦前慶應に六分の強味を誇られてゐただけに全く意外の感を投げ興へた、慶應の第一日は東大、第二日は明治神宮外苑競技場で争闘したので

あつた第一回戦
關學大 5 (4-1-0) 0 名高商
準決勝戦
慶應大 5 (2-3-0) 2 關學大
早 大 2 (1-1-0, 0-1-2) 2 全連福

決勝戦
（早大抽籤勝）
早 大 4 (1-1-0) 1 慶應大
敗北は關將櫻體の缺場に負ふところ大であつたとはいへるが、しかし早大の制覇は關體競技に不可缺である全員の氣組ががつちりと合致し至技全能を遺憾なく發揮した賜である、眞實は早慶の決勝試合で前半十七分慶應の大強襲を早大パックス死守す

1
ちろん、日本精神の興揚を國民の義務として精進されんことを望む。物議醸すためボールも自由に入手出来なくなるかもしだい、最悪の場合は立ち至つても貪庫の中の破れたボールを修理し、この蹴球を通じて精神の鍛錬と「行」としての訓育を忘れない様迫つてゐる問題だ。蹴球調査者は

選手権大会である以上、全國からの關心を集められてゐたことを思ひ各調査者の更に一層の奮起を望む。

もとに開かれたこの大會が日本一丸となつてどんなに頑張つても足らないくらゐだ。斯る情勢のもとに開かれたこの大會が日本

× ×

會長の訓辭に明示されてゐる如く、現在日本は有史以來未曾有の一大聖業を完成せんとし、國を擧げて事變を處理しつゝあるので、戰場に立つものも銃後を守る者も非常時を意識し、確固たる覺悟の基に各自本務に精勤するはもぢるん「健全なる精神は健全なる肉體に宿る」すなはち、最後の勝利は忍耐と體力にあるゆゑんをよく考へて、肉體の鍛錬はも



昭和十三年度の全日本蹴球選手権大會は第一、三回連続制覇を遂げた關東代表の慶應大と早大、東海代表の名古屋高商、關西代表の關西學院大學、それに朝鮮からの全連福を合せて四地方、五代表による六月十七日から三日間、關學大は名高商に慶應は關學大に豫想通りの結果を告げたが、早大と全連福および決勝戦における早大と慶應との試合は前者の試合は延長戦の白熱試合が後者の決勝試合は戦前慶應に六分の強味を誇られてゐただけに全く意外の感を投げ興へた、慶應の第一日は東大、第二日は明治神宮外苑競技場で争闘したのであつた第一回戦
關學大 5 (4-1-0) 0 名高商
準決勝戦
慶應大 5 (2-3-0) 2 關學大
早 大 2 (1-1-0, 0-1-2) 2 全連福

決勝戦
（早大抽籤勝）
早 大 4 (1-1-0) 1 慶應大
敗北は關將櫻體の缺場に負ふところ大であつたとはいへるが、しかし早大の制覇は關體競技に不可缺である全員の氣組ががつちりと合致し至技全能を遺憾なく發揮した賜である、眞實は早慶の決勝試合で前半十七分慶應の大強襲を早大パックス死守す

既に火蓋を切つた

東西蹴球界の展望

關東は依然

早・慶・東の鼎立

山田 午郎

春行はれた全日本蹴球選手権大

會の決勝戦は、地元の關東代表慶

應と早稻田の間に争はれた。戰前

この豫想は、いふまでもなく

慶應の絶對的のものとされてゐ

た。昨年の日本選手権を獲得し、

關東大學リーグの覇權を握り、東

西蹴球對抗戦において快勝を博し

しかも本年度チームの編成は、僅

かに松元を送り出したに過ぎな

い。これに對し早稻田は、昨シ

ズン慶應のため一勝で敗れた上

に、佐野、加茂兄弟、關野、上野な

どの主力を送り出して、チーム編

成にかつて見なし足協を見せた

ものであつた。

かゝる豫想資料の上からすれば

誰しも七分三分以上に、慶應有利

の評價をするのは當然過ぎるもの

であつたらう。ところが、この豫

想はいと見事に覆されたもので

ある。慶應は主將播磨が急病のた

め缺場を餘儀なくされはしたが、

勝敗は地をかへた計りか。慶應の

勝敗となつて止んだ。播磨一人を

缺いたことは、勿論崩壊を餘儀な

くせしめた。播磨二度の縦にとほ

す洗練されたその妙技に、播磨を

左へ

關東蹴球の 覇權は何處へ

早帝慶の三巴戰豫想

小長谷亮策



慶文職球(後半)二十分文理大ゴール前に慶大軍殺到

前頭戦の域を脱して相撲への希望の芽の判然としたものと、躍落の一歩前進によるAクラスと、Bクラスの區別による對戦は一通り終了となつて、一つ一つの試合が深刻味を加へて來た。すなはち昨年度の相手によるAクラスと、Bクラスの區別による對戦は一通り終了して、今年も相手を繰りつて早闇強化して、今年も相手を繰りつて早闇強化することになり、また文明農のRクラスの焼印を押された三者は、

關東蹴球の 霸權は何處へ

早・帝・慶の三巴戦豫想

策亮谷長小

クラスの焼印を押された三種は、

先づ慶大にすこし即ちをアセリ
て、慶大を八対二で、そして文理
大を六対二で、慶大を八対二で、そして文理
最も順風に帆をあげてゐる。早大
また明大を四対二で、文理大を一
〇〇で苦戦ながら撃破して、十一
月五日に慶大と対戦することにな
つてゐるが、これはすでに三回戦が
從つて、問題はその後の早慶帝大
の間に行はれる試合についてであ
つて、すなはち十一月十二日の電

敗れた文理大

と思ふ。

先づ、早帝戦について兩者を検討するならば、春の練習試合では帝大が二對一で早大を降してゐるが、すでに約半歳を経た練習によつて鋸鍼を加へた兩チ一い。帝大は大黒柱弱地傷いて出場

この帝大バック突破を策してゐる。殊に早大FWの様に奔放にブレーされるるに於ける背後は若干融通性に乏しいので、意外懲罰されはしないかと不安がないではない。また帝大のFWは前の大友、明太が臆い相手であつたので、相當伸び伸びした活躍を示したが、その大き得點をもつて直ちに帝大FWのが得點能力と考へることは危険である。

定する、當日の調子とか氣分などは、物を言ふ、勿論技術は試合決算の重要要素ではあるが、この試合に關する限り精神力が試合を決定する。ことに今年のやうに實力が伸びてゐる場合さうであつて、今後勝敗の關係を定めがないのです。戦で、僅かな間隙が勝敗の運命を決

のよい例は、慶大自らが春の選手権に際して手痛いまでに味ったものである。従つてこの試合は、全員が健在な限り慶大のものと思はれるが、精神的に懇意を感ずる大の賛美戦術にひつかるるに赴くことになる。

して、GK津田がいよいよ園田として今年度リーグ第一のGK振ふを示してゴールを確定し、加藤富川のF.B.に、CH石川に高島、田中を配したバツク陣を構成し、FWは猪俣、小畠、二宮、樺野、篠崎等の頭脳をもつて組織してある。

であつて、帯大が常に F.W. とつた。しかし帯大が文理大にとつた。阿部が深く障して強引る。突破を試みるか、もしくは大きく吹き出して裏を衝いて出でるかすることによつての道が開かれると思ふ。との試合も、十分本シーズンの掉尾を飾る上激戦である。

防戦に
手もあ
い。し
に中央
兩翼に
方法に
打開
に角こ

る、ことに早大のバツクは永い間
二陣に居て修羅をつんだ不破を召
Kとし、相野で弱くはあるが一躍
障碍にはなる莊田と、圓熟して彼
を補ふ吉田のFB陣、そしてや
非力ではあるが正確な判断力と好
位置をとる三宅を、老巧無野おお
び果敢柴田が輦けてくるHB陣を
突破することは容易ではなく、文

る。たとへ早大が春の全日本選手権で慶大を四対一で勝つたとして、一軍を率ゐる播磨が競技で突然敗れたによるものであつて、興應の實力と看做すわけにはゆかぬ。

平等と見る。左
Wに屬れた慶太に優位を認め
づ慶太帝四の試合を見てい
る。しかし問題は、帝大
ツクが如何に慶太の銛鎗を壓
そしてIWがどこまで慶太へ
クを突破するかにある。實驗
ころ、現在の帝大ツクで
一回、播磨を完封すること

と、F
の、ま
う
人のバ
ック
明ぐか
のバッ
のと
はまづ
は困難

奇一廣

の力をも勝敗はない。 战であ
注：見出し本

本文卷

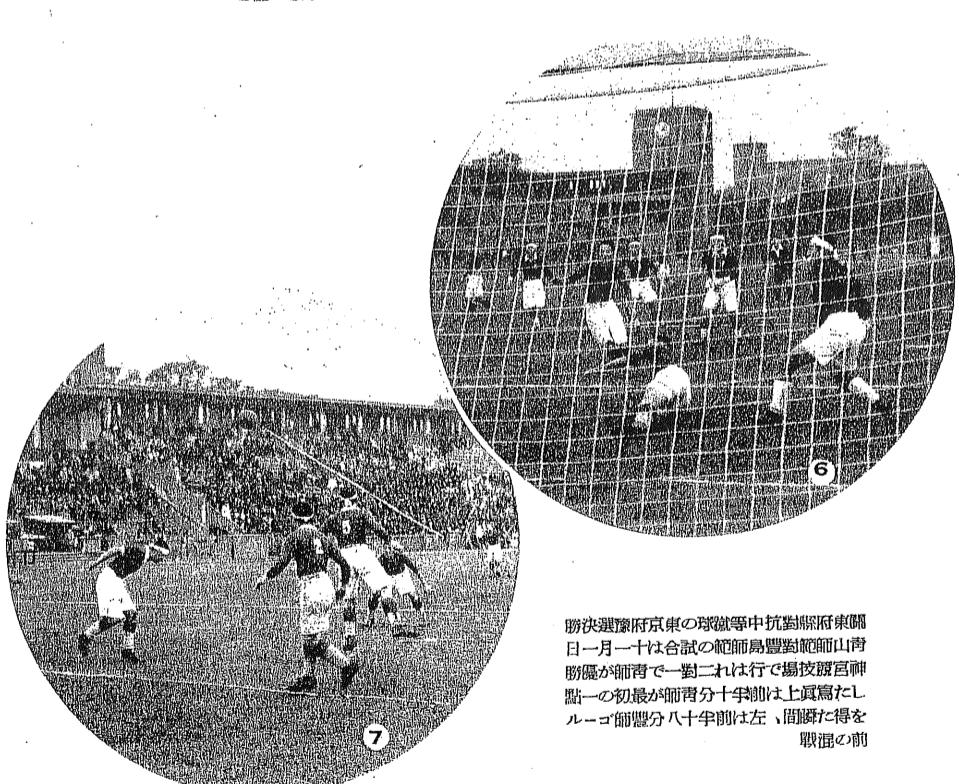
兼物二

、分八十年前の戦球蹴帝早
最大早るむ攻をルーゴの大

戦球蹴る蹴を風秋



早を攻撃の大帝、分二十二半後の戦球蹴帝早
む阻に守好ーパーキルゴ大



勝決選東京府京東の球蹴等中抗對縣府東開
日一月一十は合試の範節島豊對松前山青
勝優が勝者で一對二れは行で揚技競宮神
點一の初最が勝者分十半期は上真寫たし
ルーゴ御體分八十年前は左、間瞬た得を
戰潤の前

PICTORIAL NEWS OF THE SOCCER GAMES

- ① ② Waseda vs. Teidai, held November 12 at the Jingu Grounds, won by Teidai 3-2 (1-0, 2-2). ③ Tokyo Agricultural College vs. Tokyo Bunrika University, held November 19 at the grounds of the Aoyama Normal School, tie score 1-1 (1-0, 0-1).
- ④ ⑤ Waseda vs. Keio, held November 20 at the Jingu Grounds, won by Keio 2-0 (1-0, 1-0). ⑥ ⑦ Aoyama Normal vs. Teshima Normal in the finals of the Tokyo middle school games, held November 1 at the Jingu Grounds, won by Aoyama Normal 2-1 (1-0, 1-1).

S13-12-1

る前にルーゴ大早、分五十半前の戦球蹴櫻早
軍應慶



ルーゴ大丈、分五年前の戦球蹴櫻文對大農
軍大農るせ審め攻に

トコ應慶、分九十三半後の戦球蹴櫻早
球たれさトーコシ、て得をククキーナ
那利ため攻にグンイデツヘが宮二を



※ 右ページへつづく
要する。

▽△最後に重要な點は、

C.F.二回、播磨が相手の出方或は

防禦陣に餘り牽制され、主動的な

攻撃に出ることを専らし、持てる

がままにボールをキープした點。

一種の追ひ込みに引掛かつた如き

結果を招來し、中央線過りよりの

鋭い縦の攻撃がすつかり影を消し

てゐるため、パワーワークは巧緻で

はあるが鋭さを缺いてゐた。

關學の勝因

◇一箇を先取した以後の張
切った氣持がプレーに表はれ、既
定の方針に向つて集中されたため

豫想外の實力を發揮した。

◇既定の戦法を十分徹底し

て行はれ選手の働きはもちろん、

かくの如く一の戦法をチーム及び

個人に徹底させた黒幕の偉大なる

力。——中盤における横バスを極

度に節し、縦に深いキックにより

敵陣へ突つ込む戦法は、走力を相

當に持つ關學FWに打つて付けの

行き方であり、「昔のフットボーリ

ルに還れ」これが關學のモットー

である。

◇FW梅園のプレーは今まで

と見違へたこと、一度物腰いだ

ツユが行過ぎて縦に引つかつ

たあの馬力は、關西リーグ戦にも

得點の大半のチャンスを作つて

ゐることは實すべきである。

◇兩インナーの出来榮えは

チームのプレー全體を生かし、守

備より攻撃の第一線までも参加し

たあの労働力は恐るべきものであ

る。

◇もバツクについていへば、
關學の「モットー」とする方法によく從事し、防禦にありては廣き

グラウンドを上手に使ひこなし、

慶應の横より縦へのバスの大部分

をカットするに成功した點一
團となつたチームの威力を遺憾な

く發揮した。

上の餘地は多分に残されてゐるが、蹴球界にエボックを畫し、新し

感想を認む。

勇に角闘西園院の勝利は單に關西

側の勝りとするのではなく、日本

刺激となつたと思ふ。關學の優勝

はほ然術にもテクニックにも同

側の勝りとするのではなく、日本

※ 右ページからつづく

慶應

3 (3-1-0)

帝大

1 (0-1-1)

東京

1 (0-1-0)

横濱

1 (0-1-0)

明治

1 (0-1-0)

法政

1 (0-1-0)

東洋

1 (0-1-0)

明治

1 (0-1-0)

早稲田

1 (0-1-0)

東邦

1 (0-1-0)

成城

1 (0-1-0)

明誠

1 (0-1-0)

</

S 13-12-15



東西優勝校対抗蹴球戦・慶應対開智試合の後半三十分、開智流のバスを受けた田中(向右から二人目)のシートが見事に決り快勝した最後の一點を擧ぐ



S13-12-15

振りに關西蹴球リーグに優勝し、東西對
始以来十年目にはじめて關東代表優勝を
頌を唱へた關西國立大學チーム



(3)



東西對抗蹴球、關學對慶應
試合の後半關學が慶應ゴー
ル前で殺到し兩軍ヘッディ
ングで必死に競り合ふ

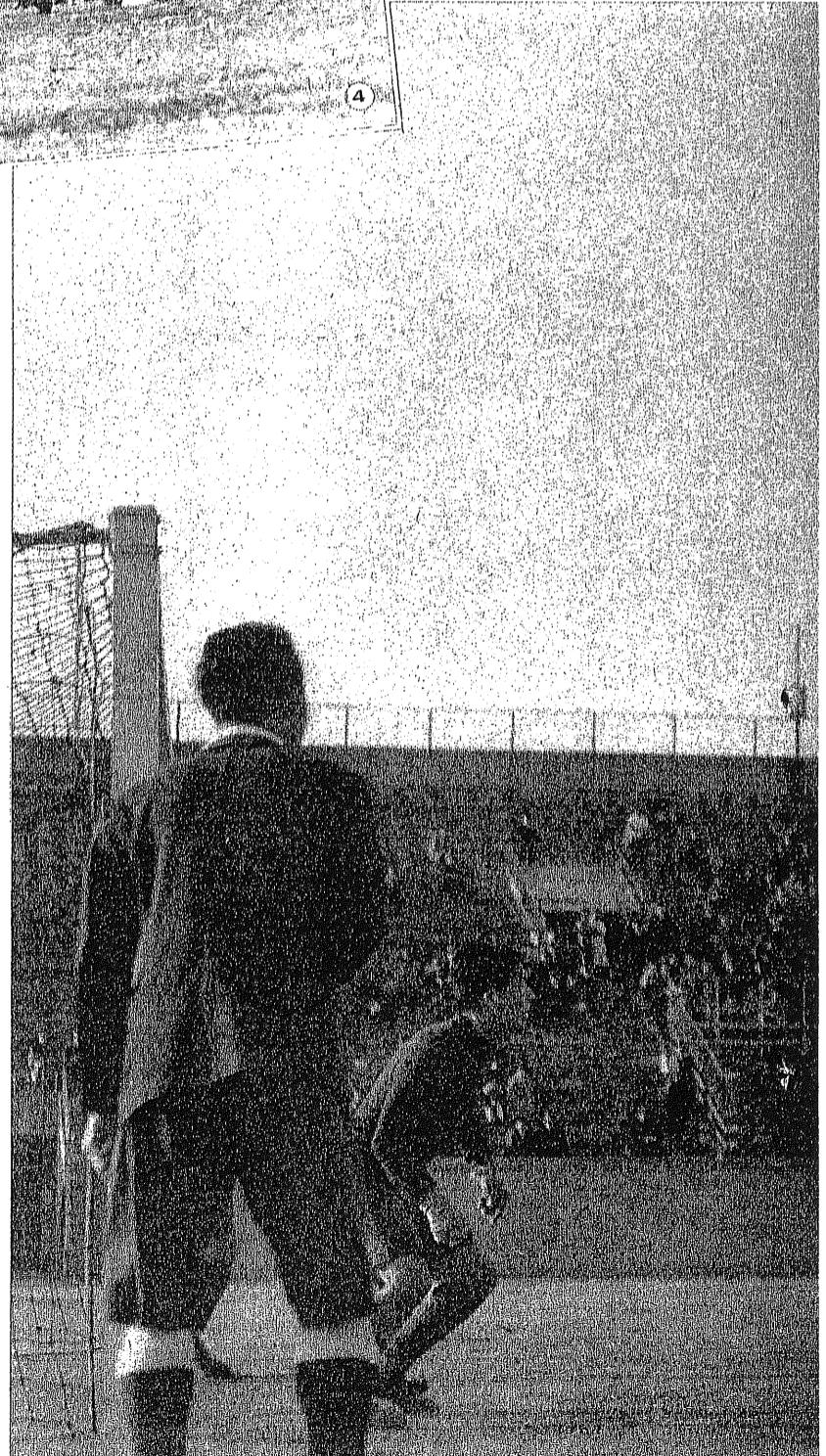


(4)

京が圓環學隔分十三半後の合試大京對學圓。慶應軍の球蹴生學西開
るも間に本岡一ペーキルゴ大京がにし御内身單にルーゴ大



(5)



BIG DAY IN SOCCER Keio University and Kansei Gakuin soccer teams, representing the eastern and western leagues, respectively, met for the national title at Koshien, December 4.

① Kansei makes its third point in the last half. ② The two teams engaged in "heading" in front of Keio's goal. ③ The Kansei Gakuin team which won the day 3-2. ④ Keio vs. Teidai, finals in the Kanto Soccer League, was held at the Jingu grounds, November 27. Keio demolished its opponent 3-1. The photo shows Keio annexing its second point. ⑤ The championship game of the Kansai Soccer League was held on the same day at Koshien between Kansei Gakuin and Kyoto Imperial University. The picture shows Okamoto, Kyoto goal-keeper, showing wonderful defense, in spite of which, however, Kansai won 2-1.

右。(シナリオ) か、切るに足る量々の黄金線である。對卿學大戰の切りにはやく獨技に走つたがため得點のゆさぶりは利かなかつたが、協力の質を結べば必ずやその名に恥ぢぬ優勝を示すだらうと期待される。

勿論獨善の

アレに走れば

と迄いか。IL小姓の右翼」と
ほし、IP播磨の左翼に切るロン
グ、スが、叩き上げられたまゝに
よく出て成功すれば、猪俣、篠崎
の得意力は露頭するものと見られ
眞鍋 安昌、大澤の京大3B線で
進退常なく吉岡の連續が懸念され
そこで小倉 唐原の執拗と凶暴な
プレイでミット・フィールドにおける
完全な破壊が要求される。たゞ
ひ京大のこの破壊が完全に成らず
とも、一日頃かせ得れば安昌を中心

い。G.I.岡本は慶應の津田と優を争ふに足り、前線の相浦の魚をよく處理しようが、慶應の突込みの鋭さに對しては施すに策き場合も屢次起り得るであらう。京大が、ソクスの出足の速さと身のタックルに物を言はせ、先んすれば制すで、田鼻叩きの頗得意の手を封し得れば先の先なつて攻めあぐむ慶應だらしめ關學大の軌を辿つて進むことに

石光、伊藤がその體力の妙
進退して、慶應守備隊を頼
得れば、また得點の綱を張
とも考へられぬもので、も
たとひスダーラートに不覺
つて、陣容を整へた
チラム力は京大を凌ぐと見
京大は過疎の地の利と、
して旺盛な騎意で出れば

配属よく
聞かしめ
近へるこ
ない。

京大は本大會における驛四側の唯一の勝ち星を、前大會の對東大戦において獲つてゐるが、再び勝利を記録するには容易であるをい。いづれにしても學生球界の四代表、近來稀らしい五角の力を發揮させてゐるので、勝つも負けるも、その日の出来一つといふことになるのはなからうか。關東必ず二朋の豫想も離しく、地の利を占めた關西側の三朋もまた風雲樹

第二線強化に乗り出で大日本蹴球協會の年一度初めの新事業として元日から一週間にわたり東京で開催される。從來このクラスの大會もあるにはあつたが高校、高商、高山、医科などと、あまりこまかく分散されて名實を伴はぬことおひただしく、この小プロソクの場所あるがために少からず飛躍向上を阻止されてゐたのだから、試験がこの擧に出たのも當年の貴勇で、むづき飛躍運びに失した感が理だが、この三二日間は一年待て十五年度の樂しみとしよう。その他の怪のあるところは開田大學リーグでもまれてゐる東京高師、駒澤高等学校リーグ部の神戸高岡、東西学生リーグ部の神戸高岡、東西の重鎮名古屋高師、關東高師リーグ一部の東京高師の四チームだが、日體、早大專、青學、横專の關東勢に廣島高師などを相當やれるといはれてゐる。

榮光日 打し印

全國專門學校踪跡豫想

皆言の景物となるやうなが東京
京都四帝大主催の全國高校大會は、
長き學業を誇つてはゐるが、その
中味に至つては全く首日の面影な
く、また全國高商、高工兩大會に
至つてはなほさら語るべきものを
持たぬ現状から推せば、むしろ大
學類科をも包含して第二線運動員
の全國高專大會と銘打つて出るの
が妥當ではなかつたか、廣く磨す
るのが向上の基である。徒に他
の主催者に遺慮せず協賛獨自の立
場で潤歩して欲しいものだ。

さて 初の大會が発表さる
るや、半島の強剛
成專門が一番乗りの申込みをなし
て參加することは喜ほしい。他は
また分らなしが、大學級の力量を
持つこの「チーム」によつて大會の
内容は一足飛びに引き上げられる
ことは疑ひない。これに無敵應應
を破つて學生選手権を捕つた關學
大の中心勢力として下同高専が、
ことは疑ひない。これに無敵應應
するばどのものでなく、總體的チ
ーム力からいへつても斷然他チーム

刻むものは、文句なしに普成と斷
言しても誰も異存はあるまい。事
實競技主手の半島に育てられたこ
のチームは、ベルリン代表で斯界
の第一人者と稱される金谷楨をコ
ーチとして、その豊富な経験から見
て實に當たる陣容を誇り、學生
と稱するに足るものである。至鮮
に代表たる兩エビ朴、玄、H.B.関の
二着にCH.康をもつて固める總監
の守備陣は既に定評あるところだ
他のチームでは容易に破り得まい
これにL.I.林の確實なキーブラフ、
強引勇敢なO.F.車を中心とする正
W.も十分な自信をもつてゐる。た
ゞ専門校員として引け目を感じ
するばどのものでなく、總體的チ
ーム力からいへつても斷然他チーム

勝手は考へられないものではない。この試合の興味であり、京大ハッカとの間の競争力の大小は、已へて憂慮するアーヴィングの想では、

關天對應のそれよりも目ざましいものがあり、手に汗させる快

ることは出来ない。まさに今ソーラーであり、球門脇かに湧くのがある。ズンの網決算的豪華のプログラム

を破つて學生選手権を握つた關

學
ム力からいつても斷然他手の追従を許さぬものがある。

一五

※右ページの「」

國產蹴球ボール

優秀の折紙・歐洲へ進出

「日本フットボールの欧洲進出といふ快ニユース」昨日
六月パリにおいて国际蹴球聯盟(FIFA)第二十四回總
會が開かれたにとき代表として出席した大日本蹴球協會理
事事務官正二郎男が、日本出發の際にミクニ商會主査田房
次郎氏から託された日本製ボールをリメ國際蹴球聯盟會
長に贈つたのが模様となつて、同會長の恩ビエール・リ
メ氏から査由田氏に宛てて

といふ問合せの書信が来た、これまで阪路は南洋から満支方面に限られてみたが、取引の折り合ひがつけば日本製ボールが大日本蹴球協會のJ.F.A.の檢印もほこらしく歐洲に向つて進出し、國際ボールの刻印が捺され、その暁には明後年のヘルシンキの第十二回國際オリンピック大會に日本製ボールが幅をきかすといふ事にもならう。



といふ問合せの書信が来た、これまで阪路は南洋から満支方面に限られてみたが、取引の折り合ひがつけば日本製ボールが大日本蹴球協會のJ.F.A.の檢印もほこらしく歐洲に向つて進出し、國際ボールの刻印が捺され、その暁には明後年のヘルシンキの第十二回國際オリンピック大會に日本製ボールが幅をきかすといふ事にもならう。

東京高師（参考未定）は母體たる文理大が脚踏車部で東大リーグでは不運にも上位に轉落したが、大半は高師生徒ながらも専門校大會としての力量は相當あって良い。G.K.中臣内、C.H.藤田のO.F.原崎の奮戦如何によつては成績を挙める。神戸高師はL.I.室山の好技に全幅の信頼をかけ、關西学生リーグの苦しい経験は、全員の技術を可成り向上させたと傳へられる。

崎一人に期待するのみで、強ムな東海の地域的不利はいかないが、ただ全員の團結力でできない。東京商船は優れた體調と滿意の精神で突貫する力のアーネスト・カーナハシムの手が相手強くいたら、實戦の弱引に陥るところが多いために、日體は半ばを牛島選手で固める。廣島高師もわが蹴球の發祥地

は小ぢんまり纏つたチーム、自
らはCF 小久保のテクニシックに因
る。その他、各地の高商チーム
は、日畠、東京高農、東京高工、
なども出場するものと豫想され
り、明年からは深松、山梨を等
に全国の高工チームも加つて、
ます大きなものとなるであら
う。

専門相手に東北を駆な頭頃ます。

正傳考

蹴球界最高の一快戦

關東の 強に歌

闘志を練れ！ 関西軍

郎太治邊田



東大8

高木は志之助のものであつ

て、一、二、三の好技はこれを連結する機能的な要素を缺き、相隣る兩

る者の間では、攻める方に分がある。守る方が分が悪い。しかもこ

れに對等の調合の語である。今
醫學が戰鬪力の點からいっても
亟かくて東大で見劣りのする狀態で

は、勝敗はすでに論じるまでもない。

突込んで來たR.I.岡野が押込んで
一點をかへしたが、バスを出す箇

にゲームは展開しない。悪くいへば、判断を伴はない局部的な射撃

で、バスを行つても、防禦側からすれば、妨害正面は大して強つてない

のだから、よほどの鋭い動きを伴
はなければかゝる類のバスは無観

ひとバスすることによつて動きの鋭さを引出すことが賢明である。

飽くまで果敢に飽くまでも伸び伸び

のいひ甲斐なきは、昨年の爛漫と比似して感傷無量のものがある。京大の演技はチーム的に觀て甚だ區々たる脚が深い。せめて個々の動きの激しさにおいて見るべきものがある。なれば、かうした敗戦はなかつたであらう。京大必ずしも人なきに非ず、練習において激しさを出す事は不足して居るのだ。練習の第一義は激しさを出すことにある。腰の足まらぬ連中は専門家である。腰の足まらぬ連中は専門家である。この試合における脚

にはならない。高級時代のガング、眼
き臍を噛んで死すべきであらう。
京大上層史を觸れ、名を憎しめ。
り體を面觸せよ。R.O.村上のことを
ものを拾ひなれば、麗麗R.I.權磨
の體的なる優校と、京大L.I.小野
の體質なる努力、眞にこれは簡
一層の潤滑を必要とするとはいへ
京大のG.K.岡本の好校とを、せめ
てもに買ふべきであらう。

卷之二十一

* 右ページからつづく

た半島の蹴球が、最近過去の機械的動作と組織萬能の蹴球から脱却して、個人技と單純な戦法の連結に依る再組織へ飛躍せんとし、斯界の潮流に乗つて、本舞台へクッキリ浮び上つて來たことは、昨年暮に行はれた三地域對抗戦に依つて明らかであり、殊に葛飾に閉じこもつてひだすら冬眠を續けて来た専門學校チームに、極端な個人技のみのフットボールを味はしめることが、如何に榮であつたかは今更言を俟たない。この意味において第一回大會は僅か十二校の乏しい参加ながら、大成功であつたと断言する。

『告成』の優勝は明らかに既定の事實であつた。その實力は、豫想された通り他の十一校に比して格段の開きがあり、熟達した個人技から生ずるパスマーケットトリックブレーにも似た軽妙さを持つ同時に、恩まれた巨體を利する素晴らしいキック力、當りの強さは常に我が大學級に伍して何等の遅色も見受けられない。今朝朝代表軍に入つてゐる朴、玄の兩F.B.およびO.H.闘は、早專を始め、他チームの攻撃が殆んど絶無であつたため實力を示す機會に恩まれなかつたが、E.W.線に十分その足技の妙を發揮した。

殊にFW黄の巧妙なアシストワーカーと、素晴らしい素晴らしい蹴進力は一寸比類ない威力を持つてゐる。またCF.W.禹の物凄いダッシュ等、半島フレーヤーの持つ特徴を明らかに發揮してゐた。只、あれだけの個人技をしながら肝腎の決定機におけるショートの拙劣さは實にお粗末なもので、こゝらが半島蹴球の最大缺點として指摘出来よう。彼等は體を大きく開き腰を落して球をキープするため、パスを受けた場合、直ちにシュートの姿勢に移ることが不可能で、必ず持直すた

めに敵バックのタックルが間に合つて、正確なショートが出来ないのではないかと思はれる。ダッシュしてショート出来る場合においてのみ彼等の持つ強力極まるキック力が、ゴールに向つて燃え立ててある。

『この』外に、全試合を通じて最も目についたのは、今まで中央球界から忘却されてゐた高専の戦ひ振りのうわに、明らかに優勝を候だ。この意味において第一回大會は僅か十二校の乏しい参加ながら、大成功であつたと断言する。

決勝で早大専門部に敗れ去つた高専が、遙かに優れてたたずみを拘らぬことと、早専に比してコンビネーションも、同じく准優勝に東海の調査名高商が告成を前に、實力の差にあつたにしろ、戦意喪失して季後防戦に終始した等、明かにその間の事情を物語つてゐる。それらが今後如何に匡正されて行くかを大きな楽しみとしておこう。試合數が少ないので以下各校にわたつて短評を掲げよう。

【一回戦】 名古屋高商
10長崎高商II名古屋は流石に東海の調査名高商だけに、パスマーケットも見受けられない。今朝朝代表軍に入つてゐる朴、玄の兩F.B.およびO.H.闘は、早專を始め、他チームの攻撃が殆んど絶無であつたため實力を示す機會に恩まれなかつたが、E.W.線に十分その足技の妙を發揮した。

昭和高商

6-1 横濱高商II昭和は

大專門部3-2 和歌山高商II和歌

F小久保一人光り、守備陣ではO.

ボス・ヒササツ

ツ

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

※左ページ

後半二九分にそれく得点され
敗れた。松江の善闘もあつたが、
廣島のFWに決定力が不足してゐ
た。一高と六高とは双方ともに動
き激しく、強豪にふさはしい熱戦
を展開したが六高や、優勢に試合
を收めて、後半中ごろに貴重な一點
を先取したが、忽ち三點を奪はれ、
後半一點を返して三勝二敗追つた
がそのまま押切らる。

Fの奔放なるプレーを封じ切れず
を收めて、六高勝つ。成城は松山○
をため、後半中ごろに貴重な一點
を先取したが、忽ち三點を奪はれ、
後半一勝を返して三勝二敗追つた
がそのまま押切らる。

准決勝

蹴球

攻防進退の變化を利し

全關東に凱歌舉る

郎午田山

率直に過ぎた關西軍の攻撃

舊體行はれたながらも靈勢が認められ、タイムアップ二分前に至り全關東軍がどどめの一點を奪つたが、全關西軍がよいスタートを切り、その優れの勝敗の闘争は定めかねたが、試合は預想された如く熱戦に終始して逆賊を許さぬものがあつた。もちろん粒を揃へた全關東軍に僅か

雲に敵はれ微風が時々あるくらいの恵まれた日和であつたが、F.W.のサッカーは乾燥して土が浮きコンチショーンは香しいものではなかつた。

三地域對抗蹴球の試合といふとして健闘の譽ある試合といふとして健闘の譽ある試合といふ

B大山のロング・キックによりなに廻せば全關東軍は左に受けて左側の進出に成功して左コナー・キックなど、これはクリヤされ

たがO.R.右近の快調は正面をとほす好バスとなり、讀いて好セント

ーリングとなつてこの後右にコート好足を見せた。これ

と想ふ。

試合は日本で大谷の妙技を生かす手があつた

と想ふ。

5

東西対抗蹴球の後半十三分、関東の安部、二宮、川本がト
ライアングルパスで關西ゴールを攻める

6

銳精の西東

ふ競を座王

安東關ていおに前ルーゴ西關 分二半後の球蹴抗對西東
那判るすトーヨシが部



4

東西對抗蹴球の前
半二十分、關西の
ゴール成る直前



7

アフる見を球蹴抗對西東

THE TWELFTH KANTO VS. KANSAI RUGBY MEET

The Kanto region annexed another victory over the Kansai delegation 56-II (29-8, 27-3) in the Twelfth Kanto vs. Kansai Rugby Meet held at the Jingu grounds, January 29. ① Yura (Kansai) in a furious dash before attempting a try in the first half. ② Wada (Kansai) gets the ball but is tackled down in the first half. ③ Fuji (Kanto) in pass-out.

THE NINTH KANTO VS. KANSAI SOCCER MEET

Kanto defeated Kansai 3-2 (1-1, 2-1) in the Ninth Kanto vs. Kansai Soccer Meet held at the Jingu grounds, February 5. This makes five victories and four defeats for the eastern team. ④ Just before Kansai makes its goal in the first half. ⑤ Abe (Kanto) shoots in the last half. ⑥ Abe, Ninomiya and Kawamoto (Kanto) resort to a triangle pass in the last half. ⑦ Eager fans witnessing Kanto's victory.



4



7

S14-2-15



ルーゴのチツイウスブイで合試のライヴントニア対チツイウスブイるけおにブツカAFのスリギイ
戰混るけおに前

技に添はぬ魂の鍛錬

意義ある野村、島田兩氏

郎午田山

てからの動きを見れば、前半高を括つてゐたといふのが深い。

相手の如何

一ム力の増強が成ったその行き方と、シーズン中精進を怠らぬといふ心齋氣からすれば、田中の出場によつて試合内容は變化に富めるものとしたではあらうが、東大の勝利は不動であつたと思はれる。

シーズンの深まると共にチーム力の漸次向上するといふことは望むところであるが、「一般的の傾向は比較的ムラが多く消長が甚だしい」。

西との試合が行はれたが、全朝鮮は3-1、3-0で「足先きに二勝を記録してしまつた。試合の頭脳的運行の巧さは全闘西、全闘東において認められるところではあるが、練習の跡は勝利の全朝鮮はまだ現れてゐない」といふのは全朝鮮軍によりよく示された。

あり魂を磨くことである。全朝鮮軍は何故に樂々ある勝利を挙げたか。その原因は種々あらうが、

それが見逃すことの出来ない

事である。

思ふ。一般にショウト・バスのぎ

こちない徒歩の多いバスから、ロ

ングバスを多分にとり入れよう

とする傾向が著しくなつた。蹴るこ

とが出来ずにフットボールはないよ

う。

とが出来ずにフットボールはないよ

う。

てからの動きを見れば、前半高を括つてゐたといふのが深い。

に於て勝利を決定づけ、断次光榮の得點に當々たる試合をなすを

が足りてゐたならば、假令勝利を逸しても斯程まで慘めな戦果は齎さなかつたであら。慎まねばならないことである。慶應は六月の

心掛けねばならない。この氣構へ

が足りてゐたならば

⑦ 関東六人制蹴球大会の第三部
の准々決勝に對陣した青山師範B
組對湘南中學の一戦は四月二十九
日青山師範グラウンドで舉行さ
れ一對零の大接戦の末青山師
範の勝に歸したが眞は後半相
手に迫る青山師範の奮振り



6

日本跳球選手手書

准決勝早大對全普成の一
戦 二対二の接戦となつたが
抽籤勝で早大決勝に進む 寫
眞は後半早大ゴール前の接戦



二月に朝鮮観勝決戦早慶も九紫辰野九紫

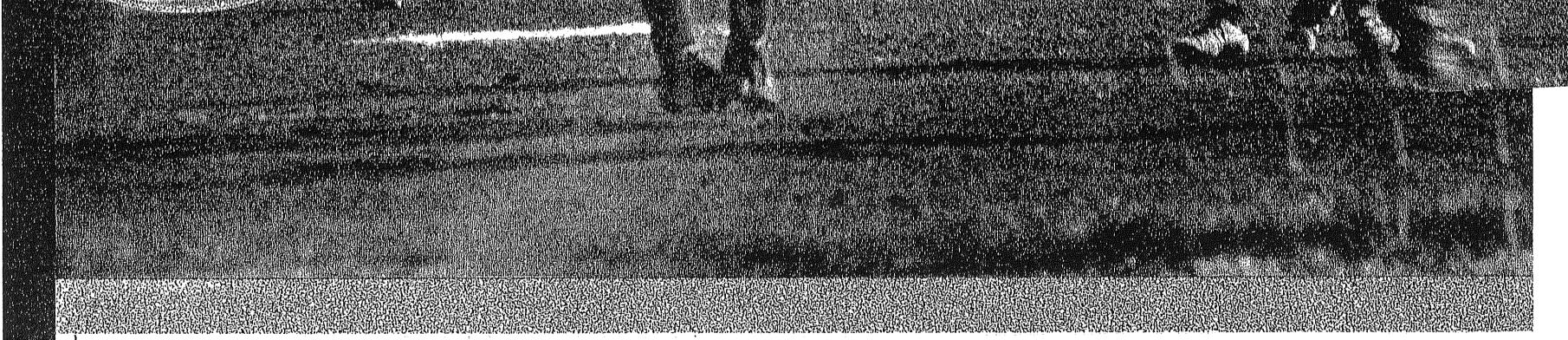
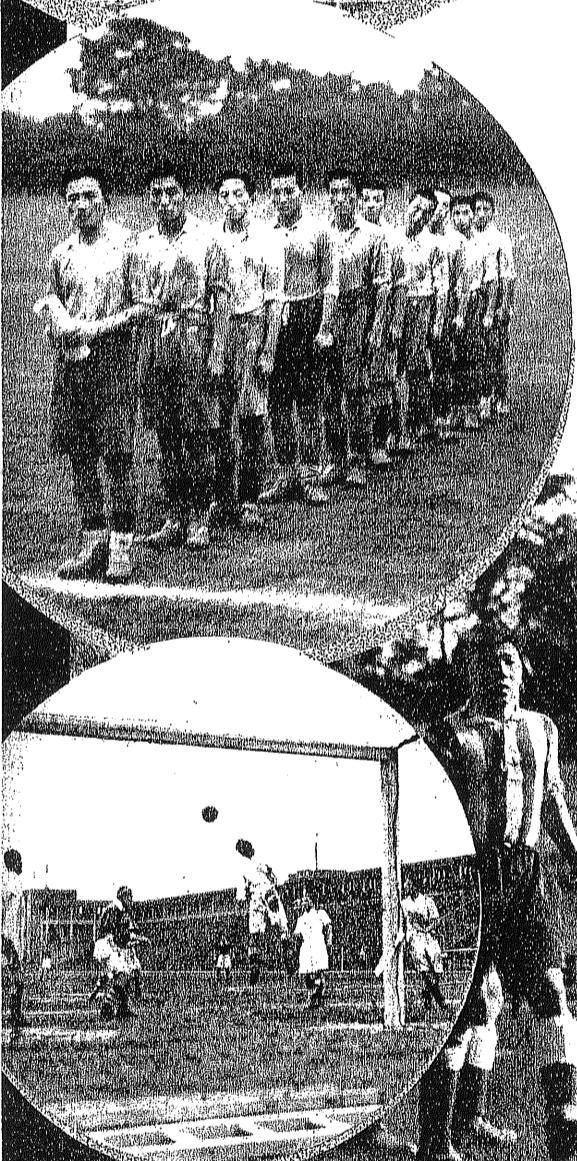
「あれがブリックリックになるやうぢ
ちや、試合は出来ん。」
とて、球友を頼み
『どのゲーム取りも甘いぞ。』
わが朝鮮では……いひなげな
口吻も、また一つのスタンド風貌

大會

第五回全日本蹴球
選手權大會は六月九
・十・十一の三日間
准々決勝より明治神
宮競技場で行はれ決
勝戦は早大と慶大と
の争ひとなり、こゝ
にも早慶戦を展開し
たが、結局二對二の
同點となつて延長戦
に入り、慶大決勝の一
點を入れて輝く榮
冠を獲得した

Keio won the national soccer title
by subduing Waseda, the runner-up, in
the Fifth All-Japan Soccer Champion-
ship Meet held at the Jingu Ground,
June 9-11.

左圖内③ 早慶戦の後半十四
分、慶大の猛攻を早大ゴール
キーパー好防に阻む
同④ 優勝した慶大チーム
同⑤ 准々決勝に輝を合せた
早大対神戸高商、六對〇で早
大勝つ



ところが、その期間空しからず
彼は裏からのバスを巧に中央へ
廻はして、昔見る一點の因をな
して大騒ぎ……いよいよゲームが
眞熱化すると、同じく早大のB・
B君がノビた左手に脚滑るとい
ての奮戦も痛々しく、片や慶應で
も敵陣へ駆込んで倒れ、暫らく敵
外へ運ばれた人もいたが、最初は
ハツキリしてた黄色のユニフォ
ームも、雨と汗で泥にこになり、
その背番号もわからぬ混戦状態と
なつた。

かくて、延長後半は、双方並み
どろに戦つて無得點かと思はれた
が、慶應シユートの名人「富」がラ
ストの止めを刺し、いかにも快し
さうに両手を擧げて戦友の前に躍
り上ったのは、さぞぞと喜ける

さうはいふもの、早大がリー
ドしながら進むので、この試合は、
興が深いのではないかと想はれる。
後半戦で同點に追いついた慶
應のG・Kは、あと十五分といふ
時に一蹴と大轟を轟し、
ついに一蹴と大轟を轟し、
「大丈夫、入るぞ。——フオワー
ド！」
と叫ばはつて、元張れと叫まし
たが、終に延長戦にねはられた。
そのころから雨がボソリ／＼と
落ちて來たので、見物席の氣が荒
くなり、早大F・W中林の活躍振
りが手ぬるしとあって、その背番
號に旺くなる歓声が送られる。

「十一番さん——しつかり頼む
ぞ。」
ところが、その間に空しからず
彼は裏からのバスを巧に中央へ
廻はして、昔見る一點の因をな
して大騒ぎ……いよいよゲームが
眞熱化すると、同じく早大のB・
B君がノビた左手に脚滑るとい
ての奮戦も痛々しく、片や慶應で
も敵陣へ駆込んで倒れ、暫らく敵
外へ運ばれた人もいたが、最初は
ハツキリしてた黄色のユニフォ
ームも、雨と汗で泥にこになり、
その背番号もわからぬ混戦状態と
なつた。

その程度の小生であるから、駆
け附近の見物客に聴耳を立てる
のが、それらのスタンド設によ
れば、早大のO・H・木岡は、非常に
よく敵のF・Wの誰やらをマーク
している。G・Kが機敏なの
は意を強うするに足るが、どうも
前線の諸君に未だしの感なくんば
あらずで、
「加茂兄弟があつたらなア、どこか
でもシユートするのに……」
といふ歓聲が頻りに現れる。

S 14 - 10 - 15

關東蹴球祭後の慶應義塾對東京商大戦の前半
三十五分、商大ゴール前における攻防、七回
一で商大零敗をのがる



定石と基礎練習不足

発育不良の二B制

三年振に見る関東戦

男忠江堀

東京戦、十七日の優勝戦。次々と行はれる試合を、私は時間の許す限り一生懸命に観戦した。三年前に我々が、ベルリンから持つて歸つた3B制その他のお土産を、東都の蹴球界はその後三年間にどれだけ発展させてくれたらうか、その健かな成長振りをまさに見たいといふ氣持で一杯だつたのである。

ところがシーズン前半も過ぎた今、私の胸に在るのは、「日本の蹴球はむしろ退歩したのではないのか」といふ悲しい紀憂である。今までの成績から見れば、六大学の質力は一が早稲田、二が早稲田、三が帝大、商大、四が明治、五が慶應が帝大、商大、四が明治、五が慶

裕がない。キックも少し心細い。通り魔化のある攻撃を心得た敵に當れば強烈に陥る。それがある。だが、播磨の球保持力と二宮君のダッシュ——骨點。この宿題にあまりに偏してゐる。だから賢

播磨——二宮

偏する得點経路

先づ慶應である。慶

應のFW線は六大學隨一の得點力を持つてゐる。だから賢

定石の咀嚼

明なバックに遭ふと對商大戦の前半のやうに、折角ゴール前まで寄せながら行き詰る。両インサイド

大早

早稲田。FW線では兩翼が劣るが、中の三

人は良い體と優れた個人技術を持ってゐる。スケールの大さな攻撃を爲し得る素地はあるのである。定石を破つた鋭い攻撃の筋が時折見られる。それなのに

スキンシップ

次は、いはゆるビッグ

大希

30分の一に數へられて

ゐた帝大である。商大

と引分け、老舗の看板で漸く明大

を退けた同チームにとっては、正

に秋風落葉の今シーズンである。

對明大戦ではゴール前で隨分チャ

ンスがあつた。それを殆んど皆ミ

スキンシップしてしまった。FWは先

づシューティングの練習に全力を

注がなければ問題にならない。

生懸命に渾す五人である。だが餘

り、

背後

に秋風落葉の今シーズンである。

關西學生蹴球リーグ

霸權を争ふは、關學大學

京都帝大

FWの攻力とバツクの守備力

小野禮年

現在の情勢

FWの攻力を維持した方が優勝

い球場に悪まれたFWには、もつと左放な戦法が要求せられて

かかるべきである。それが爲に蹴球リーグ戦もいよいよ開幕決

定への終幕に近づくこととなつた。即ち神商大が京大、神高商

に敗され、關大が關學、京大に強く敗れた今、關櫻は當初

豫想せられた如く京大、關學、

神高商の三四戦により決定せら

れることとなつたのである。しかし現在までの試合では各ティ

ームとも遺憾ながら未だ好調と

はいひ難く、従つてそこに展開

されたゲームはいづれも凡戦に

終始し、春以来關西學生ティー

ムの根本課題たる、烈しい動き

と鋭い滑り、基礎技術の練習と

FW戦法の研究などにおいて、

左程進歩の跡を窺ひ得ないのは

誠に發意である。

殊にFW戦法の單體と、FW

プレーヤーの技術の不足とは、

關西チームをして關東、朝鮮

及ぼしめざる最大の原因では

なからうか。兩中子闘の如き關

櫻は、如何に横の聯絡が功にして

あらうか。それは防禦陣を縦に

斜く抜き切る場合が稀であると

いふ一語に盡きよう、事實縱へ

の突撃を試みることの稀なFW

は、如何に横の聯絡が功にして

ボトルのキープに秀てゐても、

それは何らバツクに脅威を與へ

が爲には今少し頭脳的プレーを

るものではない。體人的マークが緊密で防禦的比擬的薄い3

FWを打破すべき最も肝要なる武器は、この縱斷的突破である。しかしてこの縱斷的突破を虎視眈々として狙はんがためにこそ

關の防禦陣勢に顧慮する攻撃の縱斷が中盤において要求せられるのである。この點關學FWの

一考を特に櫻はして置く。

次にバツクを見るにOKが高

い球に些さか弱點を持つ以外防

禦に際してはさして難點なく、

3

FWも漸く消化され來つたか

の感を深うする。唯々フレンド

の點においてはそれが日本ティ

ーム共通の缺陷とまでいはれる

だけに、このチームにおいても

未だ経験の餘地があると

いひ得よう。

一方後陣は如何。OH大澤を

中心に眞鍋、漆原を左右に配し

た3

FWと小粒ながら動きの烈

しい唐原、小倉の兩W.H.によつ

て固められたバツクは、關學

のそれに比し些も遜色なき強韌

性をもつてゐる。たゞ中盤にお

いて關學ほどインサイドフォワードの援助を期待出来ぬだけに

それだけW.H.の負担が加重され

るのではあるまい。

今後はこのチームに敵ふべくも

なき不安を感じしめてゐる。比

較的身體には恩まれてゐるので

あるから、更に腰を低くした深

いタックルと粘りを養ふならば

いひ得よう。

FWラインは可成りの纏りと傳

へば、關學FWは京大に比して一

度は相伯仲である以上、勝敗の分

岐は一にFWの優劣にかゝつて

ある。從來よりの戦績に徴され

ば、關學FWは京大に比して一

度は相伯仲であるが、京大ベ

の失墜であらねばならぬ。少く

とも顧慮を自指して關はれる今

の試合にあつては、眞に熱の

闘争である點に想到する時、

こもつた場面に終始せんことを

關西學生蹴球興隆の爲に重ねて

願望して筆を擱く。

神高商いかが

可能ならしめるだけの各人の基

礎技術の向上が先決問題である

自分が如何にプレーしなければ

ならぬかを知悉し、自覺してを

りながら、しかも猶度々球が意

の如く動かぬ所以はどこにある

か。これ明かに基礎技術の缺如

を暴露せるものといはざるを得

ない。京大がこの點に醒めて今

後地道な努力を積み、自己の鏡

利な持駒を十分生かすやう留意

するならば、その威力も決して

侮る可からざるものとなること

を確信するものである。

一方後陣は如何。OH大澤を

中心に眞鍋、漆原を左右に配し

た3

FWと小粒ながら動きの烈

しい唐原、小倉の兩W.H.によつ

て固められたバツクは、關學

のそれに比し些も遜色なき強韌

性をもつてゐる。たゞ中盤にお

いて關學ほどインサイドフォワードの援助を期待出来ぬだけに

それだけW.H.の負担が加重され

るのではあるまい。

FWラインは可成りの纏りと傳

へば、關學FWは京大に比して一

度は相伯仲であるが、京大ベ

の失墜であらねばならぬ。少く

とも顧慮を自指して關はれる今

の試合にあつては、眞に熱の

闘争である點に想到する時、

こもつた場面に終始せんことを

關西學生蹴球興隆の爲に重ねて

願望して筆を擱く。

神高商いかが

可能ならしめるだけの各人の基

礎技術の向上が先決問題である

自分が如何にプレーしなければ

ならぬかを知悉し、自覺してを

りながら、しかも猶度々球が意

の如く動かぬ所以はどこにある

か。これ明かに基礎技術の缺如

を暴露せるものといはざるを得

ない。京大がこの點に醒めて今

後地道な努力を積み、自己の鏡

利な持駒を十分生かすやう留意

するならば、その威力も決して

侮る可からざるものとなること

を確信するものである。

一方後陣は如何。OH大澤を

中心に眞鍋、漆原を左右に配し

た3

FWと小粒ながら動きの烈

しい唐原、小倉の兩W.H.によつ

て固められたバツクは、關學

のそれに比し些も遜色なき強韌

性をもつてゐる。たゞ中盤にお

いて關學ほどインサイドフォワードの援助を期待出来ぬだけに

それだけW.H.の負担が加重され

るのではあるまい。

FWラインは可成りの纏りと傳

へば、關學FWは京大に比して一

度は相伯仲であるが、京大ベ

の失墜であらねばならぬ。少く

とも顧慮を自指して關はれる今

の試合にあつては、眞に熱の

闘争である點に想到する時、

こもつた場面に終始せんことを

關西學生蹴球興隆の爲に重ねて

願望して筆を擱く。

神高商いかが

可能ならしめるだけの各人の基

礎技術の向上が先決問題である

自分が如何にプレーしなければ

ならぬかを知悉し、自覺してを

りながら、しかも猶度々球が意

の如く動かぬ所以はどこにある

か。これ明かに基礎技術の缺如

を暴露せるものといはざるを得

ない。京大がこの點に醒めて今

後地道な努力を積み、自己の鏡

利な持駒を十分生かすやう留意

するならば、その威力も決して

侮る可からざるものとなること

を確信するものである。

一方後陣は如何。OH大澤を

中心に眞鍋、漆原を左右に配し

た3

FWと小粒ながら動きの烈

しい唐原、小倉の兩W.H.によつ

て固められたバツクは、關學

のそれに比し些も遜色なき強韌

性をもつてゐる。たゞ中盤にお

いて關學ほどインサイドフォワードの援助を期待出来ぬだけに

それだけW.H.の負担が加重され

るのではあるまい。

FWラインは可成りの纏りと傳

へば、關學FWは京大に比して一

度は相伯仲であるが、京大ベ

の失墜であらねばなら

～ゲーリ球蹴生學西東關

東は結局早慶争覇

堀江忠男

私は前々
號で今年の
關東大學蹴
球リーグは
二、三年前
に比べて寧
ろ質力が低
下したので
はないかと察
じてゐると書いた
しかし、十月中はむじろ序幕戦
で十一月に入つてから各チーム
とも最高の調子を整へて大事な
試合に臨むのが大學リーグの常
だから、或はシーズン後半にな
つたら見違へるやうに力強い試
合が見られるかも知れない、とい
ふ希望も持つてゐないではない
かつた。それから一月が経つ
た。ビッグ3同士の対戦も早
帝、慶帝の二試合が済み、あと
は關東を賭けた早慶の一戦を残
すだけである。

× ×

大體今年
の力量は明
かにされたといつて良い。第二
部に顧慮することの絶對確實な
農大、早稻田には勝つたが、そ
の後農大との試合に二點の差し
かり作り得なかつた明大、シーズ
ン初めから小さく繩りを見せて
ゐたがそれ以上進歩を示さない
商大、この三チームの論評はシ
ーズンが終了した時にでも譲る
ことにして、こゝでは早帝、慶

※左ページへつづく



輝く慶應の二連覇

早慶戦評

宿命の二対二！早稲田前半の健闘空しく覇を逸す

川本泰三

慶應 3-2-2 2早大

(11月26日・於神宮)

十一月末に
しては、少々

に押しまくつた早大の猛攻は惜しくも實を結ばなかつた。

それは餘談として二十分邊りに渡りから戦局は三轉して再び早大に

手傳つたが、今度こそは早大もしつかりとこれを捉へた。

二十三分早大が得た超死同生

だが、前半の失敗に躊躇した

慶應は後半開始のホイップスルと

つてから早大は、GK不破一

間をのぞいては殆んど早大のベ

ースで以つて戦ひが進められた

慶應が二點をアヘッドした數分

功であつた。開始劈頭の猛製を

始めとして四十五分間、この内

乾坤一擲の猛製を……といふの

に見られるシユートの貧困を物語る以外何物でもない。

それは慶應のみならず最近一般

慶應が勝利を収めた、かう

も疲労の影が漂ひ始めた、かう

前半終り早くも願を出して

人を自陣へ残して、全員が慶應

ストの左右へ散つて無爲に終つた事は慶應のみならず最近一般

に見られるシユートの貧困を物語る以外何物でもない。

それは慶應として二十分邊りに渡りから戦局は三轉して再び早大に

から戦局は三轉して再び早大に

から戦局は三轉して再び早大に

から戦局は三轉して再び早大に

それも實を結ばなかつた。

そこには、それまでともかくも良く動いてゐた守備陣に

慶應の勝利點は三千二分、矢張り篠崎のセンタリングが順繩

に左へ渡つてフリーのポジシ

ヨンにて渡邊のシユートがなつたもので、早大は、この機会に

後反撃の氣力を全然失ひ、あた

止まるところには、それまでともかくも良くなつた。

ところが前半戦は豫想外の成

績を示すのであるが……。

だが、前半の失敗に躊躇した

後半戦にはいつてから三分後

がその目論みであつた。

それは慶應として二十分邊りに渡りから戦局は三轉して再び早大に

から戦局は三轉して再び早大に

から戦局は三轉して再び早大に

から戦局は三轉して再び早大に

から戦局は三轉して再び早大に

も、また斐が、攻撃の績を見出せない焦慮と、ヒタヒと押寄せる

強攻をどうして後半始め慶應の

死兒の輪を數へるの懸かさに

いた斐が、攻撃の績を見出せない焦慮と、ヒタヒと押寄せる

強攻をどうして後半始め慶應の

死兒の輪を數へるの懸かさに

も、遂に甲斐なかつた。

死兒の輪を數へるの懸かさに

も、遂に甲斐なかつた。

死兒の輪を數へるの懸かさに

も、遂に甲斐なかつた。

死兒の輪を數へるの懸かさに

關學大の王座搖がず

京關戦評

試合巧者の京大の善戦も力の關學大には抗し得ず

三宅二郎

六分の強味があるものと思はれたが、由來關學大は京大が苦手

合の興味は依然沸きたつたもの

六分で、いままで數度戦前の豫測を覆した例もあり、又京大は試合にいなして、あり餘る逸球が早

に一点を追加すれば勝敗は恐ら

京大は前半關學大の不調によ

に一箇所で勝てぬが、起るのではないかと思はれた。ところが京大はハーフタイム

のクロスバスには妙味招すべきものがあつた、まだ今シーズン

の試合運行の拙劣さによるものであつた。

後半まで持越される事なくしてあつけなく決定してしまつた。そこで京大は二十四分關

に京大を諫め去つてゐながら

は、まだ素晴らしかつた。これ

で、京大は如上の趣みも水泡に

離し去るのではないかと思はれた。ところが京大は二十四分關

は、まだ素晴らしかつた。これ

を引いた。だがこれは二本共津田らしい強味が津田の左側へ向つて直線で、しかもキックによつて退けられてしまつた。共に些か正面を働き過ぎたが、後半に入ると慶應守備陣は從來の例から見

盤戦においてハーフおよび両ソナーのキープ力が全然だらず前線へ豊富な弾薬を供給する、恩はれる程猛烈なものであつた。その内に早大陣は帝大戦に受けた猛烈な撃沈を押して奮闘して到了した最後の攻撃はまだま

で、防陣をがつちりと布ける京大バックスの真正面にぶつつけ

るた守備陣も不思議なくらぬ激刺として動き、良く球を拾つて前線へ豊富な弾薬を見出せない焦慮と、ヒタヒと押寄せる

無闇矢鱈に前へ前へと蹴るのみ

で、防陣をがつちりと布ける京

づたが、開始後十分間ひた押し

が莊田をして最後まで早大の穴も一つや二つではなかつた。そ

れらのショートがことごとくゴールをオーバーしました徒らにボストの左右へ散つて無爲に終つた事は慶應のみならず最近一般に見られるショートの貧困を物語る以外何物でもない。

それは慶應として二十分邊りに渡りから戦局は三轉して再び早大に

から戦局は三轉して再び早大に

から戦局は三轉して再び早大に

から戦局は三轉して再び早大に

から戦局は三轉して再び早大に

から戦局は三轉して再び早大に

S14 - 12 - 15



上 早慶蹴球戦 後半十分 慶應のコ
ーナーキックを早大のF.B.織内ヘッド
イングでよく防ぐ（十一月二十六日
神宮競技場）